

# 第74回国民体育大会

我らかく戦う

期 日 令和元年9月28日(土)～10月8日(火)

会 場 茨城県ひたちなか市 他

公益財団法人 北海道スポーツ協会

# 我 ら か く 戦 う

競技名	種別	評価	予想順位・得点	戦いの展望	有望選手・チーム	特記事項
陸上競技	全種別	3	団体8位、得点90点	有望選手が世界選手権へ出場や他都府県へ就職し登録変更したため、北海道選手団としては厳しい戦いが予想される。	御家瀬緑：少女女子A 100m 女子共通リレー	佐藤三太：2019インターハイ走幅跳 3位 御家瀬緑：2019インターハイ100m 優勝 石堂陽奈：2019インターハイ100m 2位 / 200m 1位 久保田亜由：2019インターハイ砲丸投 3位 西山藍那：2019インターハイ円盤投 6位 京谷萌子：2019日本選手権走高跳 2位 今季不調で苦しんでいる福島千里選手の復活なるか 御家瀬緑選手の国内負け知らずの活躍
サッカー	成年男子	3	団体5位、得点20点	普段の試合時間と違い、70分と短いため、安易に失点すると試合を優位に運ぶことが難しくなる。まずは、安定した守備をテーマに、攻撃ではチャンスを確実に得点に結び付けるゴール前での集中力とフィニッシュの精度が勝敗を左右と考えている。 過去3年間、成年男子は競技ポイントを獲得していないことから、是が非でもまずは初戦突破を目標としたい。	北海道教育大学岩見沢校サッカー部	・2018年天皇杯全日本サッカー選手権2回戦敗退（1回戦vs葦崎アストロズ1-1PK5-4、2回戦vs湘南ベルマーレ0-1） ・2018年総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント1回戦敗退（3-4東海学園大） ・2019年天皇杯全日本サッカー選手権1回戦敗退（vs流通経済大学0-2） ・2018年全国大学サッカー選手権大会2回戦敗退（1回戦vs日本文理大学3-1、2回戦vs早稲田大学0-1） ・鈴木貴大（ノルブリッツ北海道FC）*2年連続出場、過去少年男子でも出場歴有 ・橋本恭佑（教育大岩見沢）*2017愛媛国体時も成年男子チームで出場
	女子	3	団体3位、得点48点	今年度はノルディア北海道を中心に、北海道女子リーグチームの選手も合わせたチーム「北海道」で本大会に臨みます。	有望選手は登録選手全員	北海道内での優秀選手を集めたチーム。
	少年男子	3	団体8位	個人の能力では全国レベルとの差があるが、チームとして献身的に戦い上位進出を目指している。	岡本大地（札幌大谷） 山本武蔵（札幌大谷）	木戸柊磨（コンサドーレ札幌）3大会連続出場
テニス	成年男子	4				齋藤：早稲田大学出身、2018年全国学生テニス選手権大会シングルスベスト4 太田：日本テニス協会男子シングルスランキング現在86位
	成年女子	3				金内：昨年までの高校生時代に、インハイ、全日本ジュニアに連続出場。現在、関東大学リーグ2部の駒澤大学所属 平野：昨年までの大学時代4年連続インカレ出場
	少年男子	3				藤川：インターハイ団体、個人戦、全日本ジュニアテニス選手権出場
	少年女子	4				照井：2019インターハイ、シングルス優勝、全日本ジュニアテニス選手権、シングルスベスト4 田巻：インターハイ、全日本ジュニアテニス選手権 出場
ボート	成年男女	3		昨年5位入賞の木村君が優勝を目指す。成年男子舵手付きフォア、成年男子ダブルスカル、成年女子シングルスカルが順位決定戦の進出を目標にポイント獲得を目指す。	成年男子シングルスカルの木村	U23の日本代表として選出され、ふるさと選手として最後の年に優勝を目指している
	少年男女	3		少年男子クオドルブルは2年生が主力だが、例年に比べて体力があり善戦が期待される。少年男子ダブルスカルは昨年おしくも順位決定戦進出を逃したコンビそのまま、今年は決勝を狙う。その他は、経験の浅い選手が多く、まずは予選突破が目標。	少年男子ダブルスカルの綾野・武田	
ホッケー	成年男子	3	団体5位、得点20点	出場10チームの中で、チーム力としては高いとは言えないが、粘りあるディフェンスと速攻により、強豪チームに迫りたいと考えている。	山崎元 布施亮太	山崎元：大学時代日本選手権優勝チームのG K 布施亮太：2019大学王座決定戦優勝チームの一員
	成年女子	3	団体4位、得点40点	走力強化して、勝利にこだわる	・菅原 郁恵（個人登録=UNITY）	・菅原楓・茜の姉妹、従妹の菅原郁恵、またコーチに菅原楓・茜の親（菅原覚） ・布施葵と成年男子に布施弟の出場 菅原：高校卒業後、就職の為参加していなかったが、本年度参加できることになり負けず嫌いなプレーを全国で存分に発揮してほしい。（菅原郁恵）
	少年男子	2	団体5位、得点20点	DF力を重点に、少ないチャンスを狙い、ロースコアゲームを狙う		北海学園札幌高校 インターハイ 1回戦
	少年女子	2	団体5位、得点20点	2校からメンバーを選出しているが、それぞれの素質を活かし、わずかな練習の中でチーム力を上げていきたい。今大会までに、遠征を行い、他チームとの違いやどこまでできるか力を試せる期間にしたいと考える。強豪校相手にも走り負けないチームを創っていきたい。また、得点を取ることが今大会の目標である。		第61回全国高等学校ホッケー選手権大会 1回戦敗退
ボクシング	全種別	4		元オリンピック選手の鈴木を中心に、同じ環境で練習しているメンバーが成年少年合わせて4名もおり、波に乗れば期待以上の活躍ができると思う。	鈴木康弘：元オリンピック出場者 阿部陽輔：元Jリーガー（異種競技ではあるが、ポテンシャルは計り知れない） 黒部竜聖：2年連続の高校総体ベスト8、今年3月選抜大会準優勝	黒部竜聖：今夏高校総体でベスト8、今春選抜大会第2位 川上海音：今夏高校総体でベスト8、今春選抜大会第2位 鈴木康弘：元オリンピック出場者 阿部陽輔：元Jリーガー
バレーボール	成年男子	2	団体7位、得点7.5点	格上のチームに対し臆することなく、チャレンジャー精神で全力で戦う。		
	成年女子	2	団体16位	抽選で初戦Vリーグチームと当たらなければ、勝機の可能性は少なからずある。そうでなければ、相手が下手に見たところを逆手に取り、第一セットを奪いたい		東日本インカレ、全日本インカレ出場、全日本学連選抜大会出場 6年連続出場
	少年男子	3	団体第5位、得点17.5点	WSに高校選抜された澤口選手(葉岩)と2年生の柿崎を置き、安定感のあるサイド陣を攻撃の軸とし、MBIに194cmの芳賀選手と澤口選手(科学)と高さのある選手をそろえているためサーブで相手の攻撃を単調にしブロックでチャンスを作っていく展開を作ることができれば上位入賞も見えてくるだろう	澤口将太郎(札幌葉岩) 柿崎晃(科学大高校) 芳賀祐介(札幌北高校)	科学大高校 高体連全国大会ベスト16
	少年女子	3	団体7位、得点7.5点	今年度から9月と本大会前に2回の道外合宿を行うことが可能になり、強豪校や大学生とのゲームを重ね、より充実した状況の中で本大会を迎え、昨年以上の結果を出すことを臨む	廣瀬美音(札幌山の手高校)	廣瀬美音：今年の2月に東京で行われたジュニアオールスターに選出。 札幌山の手高校：決勝トーナメント2回戦進出 帯広南商業高校：予選グループ敗退
ビーチバレーボール	少年男子	1		競技人口の少ない北海道からの参戦なので、他のチームのプレーやスタイルを見て自分たちのレベルアップをすること。同世代の北海道の人たちへ競技を広げられるように貢献したい。予選一勝。		
	少年女子	1		初めての出場なので、会場の雰囲気慣れどんな場面でも穏やかに過ごし、笑顔をやさげ自分たちの現時点での実力が発揮できるよう努めたい。他県の選手との交流を通して、北海道でできることを見つけてきたい。予選一勝。		
バスケットボール	成年男子	4	団体第5位、得点12.5点	社会人に学生を組み合わせたフレッシュなチームなのでスピード感溢れるバスケットボールを展開し上位進出を目指す。	大釜賢治(宮田自動車)	第72回愛媛国体 第5位 第73回福井国体 第5位
	成年女子	3	団体第3位、得点27.5点	今大会では、高校生が成年のカテゴリーで活躍することができるようになり、今までの成年女子にはない戦いが考えられる。高校生・大学生の連動、攻守でのアグレッシブさ、積極的な攻防の展開が楽しみな部分である。加えて経験豊富な社会人、ふるさと選手がサポートすることで、北海道選抜・成年女子チームとして選手の意思統一が見込まれる。	野村裕梨：Dream 久米捺美：日本女子体育大学 館山萌葉：札幌山の手高校	
	少年男子	3	団体16位	守備力の強化を図り、相手チームのミスを生かして、勝利を目指したい	篠子冬芽(駒大苫小牧高校) 鹿原拓夢(東海大札幌高校)	北海道第一代表：東海大学付属札幌高校、全国高体連2回戦敗退 北海道第二代表：白樺学園高校、全国高体連1回戦敗退
	少年女子	3	団体第5位、得点12.5点	足を使った早い展開のバスケットとフリーな状態を作って外角からのシュートの確立を挙げて戦い、上位進出を狙いたい。	中村華祈(札幌山の手高校) 真壁あやの(札幌東商業高校)	中村華祈、真壁あやの：U16日本代表に選出 札幌山の手高校 ベスト8
レスリング	成年男子・女子	4		自力のある、社会人・大学生が揃ったことから、上位進出を狙いたい		清水 賢亮（グレコ 60kg級）平成30年度 新人戦優勝 山本 泰丈（フリー 125kg級）平成30年度 国民体育大会 フリー 125kg級優勝 平成30年度 全日本学生選手権 125kg級
	少年男子	2		選手の奮起に期待したい。		
セーリング	全種別	2	個人3位、得点6点	毎年継続して得点がとれるよう選手団選手9名、少数精鋭で。特に今年は2種目入賞を目指す。	松苗 幸希 東京国体 成年女子 SH・SR 級 3位 勝部 しずく 愛媛国体 少年女子 LR 級 4位	

競技名	種別	評価	予想順位・得点	戦いの展望	有望選手・チーム	特記事項
ウエイトリフティング	成年男子	3		松本、福本は、得点獲得が期待できる。近藤、寺島は、得点圏に近い位置にいますので、入賞を目指しての戦いとなる。	松本経丸、福本龍馬両学生チャンピオン	松本経丸：全日本学生個人戦 優勝 福本龍馬 全日本学生選抜 優勝
	少年男子	4		羽田はインターハイ優勝で、優勝候補筆頭 清水はインターハイ3位なので入賞が濃厚。長田も入賞可能な位置にいる。	羽田創	羽田創：全国高校総体 優勝・この大会で全国3冠がかかる / 清水：全国高校総体 4位
	成年・少年女子	3		全国女子最年少で国体に出選された瀬川に期待、今大会の目標は入賞、そして来年度は上位入賞を目指したい。	瀬川瑠奈	瀬川瑠奈：2019全国高校女子選手権 優勝 日本中学記録保持者 第70回日本選手権大会（平成30年1月熊本開催）1回戦敗退 19-37福岡大学
ハンドボール	成年男子	1		チームの目標である初戦突破を目指して戦う		インカレ2016：初戦敗退インカレ2017：初戦敗退インカレ2018：初戦敗退
	成年女子	1		札幌国際大学の単独チームではあるが、北海道を代表して戦う気持ちを胸に、全国の舞台で萎縮せず、持てる力を存分に発揮できるよう試合に臨みたい	沢田響(札幌国際大学：3年生)	
	少年男子	3		やりたい事がやれないまま高校最後の大会を終えないよう、自分たちの武器である走りを60分間やり抜きたい。そして、勝ち進みたい。	小玉峻輝(GK・札幌静修高校・3年) 後藤碧(LB・札幌静修高校・3年) 及川琉弥(LW・札幌北陵高校・3年)	熊本インターハイ 札幌静修高校19(7-11・12-9)20瓊浦高校 長崎 札幌選抜チームの北海道代表は4年連続
	少年女子	2		小学校、中学校で全国大会を経験している選手が多く、この経験値を生かして初戦突破を目指す。	村本優花(函大柏稜)山本菜奈(函館工業) 三浦涼(札幌月寒)	1回戦 札幌月寒 16-20 静岡県富士
自転車	成年男子	3			小堀敢太選手 中川拳選手	木賊弘明：連続10大会出場
	少年男子	2		予選通過が目標となるのは否めない		
	女子	3			寺井えりか	73回大会にてケイリン決勝へ進みポイントを獲得している。
ソフトテニス	成年男子	3	団体8位、得点5点	4年前から導入された「シングルス」での勝敗が、チームの勝敗に大きくかかわってくる。シングルスはどう戦うのかプランをより鮮明に描き、チームとしての戦術の徹底を図る。	粒来 怜・天池 巧ペア	今年度、東日本選手権ベスト8 平成28年度 成年男子初優勝 平成29年度 同第三位 平成30年度 同第8位
	成年女子	3	団体8位、得点5点	団体入賞を経験するベテラン選手に加え大学生が3名とバランスの取れたチーム構成になっており、接戦に持ち込みチーム力を発揮したい。		
	少年男子	3	団体3位、得点30点	東日本選手権(一般)ベスト16の増田・蝦名ペア(北海道科学大学高校)を軸とした5人中3名が2年生の比較的若いチーム。自分たちの持っている力を発揮できることを目標に、一戦一戦頑張る。	増田・蝦名ペア	増田・蝦名ペア：東日本選手権(一般)ベスト16
	少年女子	3	団体7位、得点10点	今年は、16県の参加の年になっており(昨年は47都道府県エントリーの年)、組み合わせ次第によっては、上位進出を狙うことができる。初戦にどの県と対戦することが一番重要となってくる。	札幌龍谷学園高校	インハイ団体は、二回戦敗退。 下園・黒沢ペアがベスト32
卓球	成年男子	3	団体5位、得点7.5点	チーム全体がまとまって、前回の結果を上回りたい。		
	成年女子	3	団体5位、得点7.5点	各選手がベストを尽くし、チーム一丸となり、3年ぶりにベスト8以上の成績を目指す。	鎌田那美(早稲田大学)	鎌田那美：H29全日学 女子シングルス ベスト16 女子ダブルスベスト8 2019年関東大学春季リーグ優勝 高山結女子：H30インターハイ 女子シングル3位 後木玲奈：H30インターハイ 女子ダブルスベスト8
	少年男子	3	団体5位、得点7.5点	高校3年生2名と中学生の力を借りて数年ぶりの第5位入賞を目指す。	荒井正明(寿都中学校・3年)	
	少年女子	3	団体3位、得点16.5点	高校2年生1人、1年生2人という若いチームなので、チャレンジ精神で頑張りたい。	買手日菜(前年度全国中学ベスト8)	
軟式野球	成年男子	3		対戦相手より1点でも多く得点し、打ち勝つ。		
相撲	成年	3	団体9位、個人17位	相撲競技では天皇杯ポイントを長らく獲得していないので獲得を目指し頑張る。	佐藤友輝	佐藤友輝、佐藤勇輝は兄弟
	少年	3	団体9位、個人17位	相撲競技では天皇杯ポイントを長らく獲得していないので獲得を目指し頑張る。	木村 蓮	木村蓮は、インターハイでは一勝している。現在関取の一山本関の後輩。
馬術	全種別	4	団体3位、得点6点 個人4位、得点40点	成年総合と馬場馬術で上位入賞が期待できる人馬が出場する。また大障害では年々高さが更新され難易度が上がるが経験のある人馬が出場する。	少年選手	ふるさと選手・林伸伍選手は国際大会も経験している有力選手。 少年選手・大池選手は全国大会での試合経験がある。 阿蘇選手は昨年の全国高校馬術選手権2位入賞している。
フェンシング	成年男子	4	団体8位、得点3点	初戦を勝って勢いに乗り、上位進出を目指す	山村選手 泉澤選手	森選手2年連続出場ワールドカップ、モスクワグランプリ出場(2018) 第73回国民体育大会サーブル準優勝 2年連続出場
	成年女子	3	団体8位、得点3点	サーブル種目でできるだけ上位ポイントを獲得し総合順位上位を目指す。	山村選手・泉澤選手	山村選手・泉澤選手：インカレ・全日本出場・世界大会出場経験者
	少年男子	4	団体16位	若手ならではのフットワークを生かしたダイナミックなフェンシングで上位を目指す	藤田選手 阿部選手	藤田選手：第65回全国高校総合体育大会 団体2回戦敗退・個人エベ6位入賞 阿部選手：第65回全国高校総合体育大会 団体2回戦敗退・個人フルレ2回戦敗退 3年連続国体参加
	少年女子	3	団体8位、得点3点	初戦を勝って勢いに乗り、上位進出を目指す。		高橋選手：第65回全国高等学校総合体育大会 団体・個人出場 2年連続国体参加
柔道	成年男子	3	団体5位、得点12.5点	昨年の少年男子の活躍に刺激を受け、シニアの選手達も燃えている。先鋒・次鋒で得点し、後半をベテラン勢がどう凌いでいくかが勝負の鍵となる。	浅利昌哉選手	高校時代より全国のトップ選手として北海道を牽引して現在も活躍している。活躍が北海道の命運を握る
	女子	3	団体5位、得点12.5点	昨年の少年男子が激闘の末、第5位という優秀な成績を取めていることから、女子選手も先鋒から流れを作り、後半でポイントをつかんで第5位を目標に臨みたい。	副将の佐々木選手	次鋒・西選手：H28全日本柔道優勝大会ベスト8 副将・佐々木選手：H31 全国高校選手権大会(個人)第5位 大将の吉岡選手は、今大会で3回目の出場となり、北海道の女子柔道復興に貢献している選手である。
	少年男子	4	団体5位、得点7.5点	中堅・杉本と大将・大谷を中心にポイントを取られ、いかに失点を少なくすることが勝負の分かれ道になる。	中堅 杉本翔一朗 大将 大谷大斗	杉本翔一朗 H29全国選手権大会-81kg 第5位 大谷大斗 令和元年 全国インターハイ -90kg 第5位
ソフトボール	成年男子	2		投手を中心に守りを固め、ワンチャンスを逃さない試合をする。	北海道大学	今回の優勝チームを主体に若い力を出せる
	成年女子	2		辛抱強くワンチャンスを逃さない試合をする。	大須賀 まどか選手・神 樹里乃選手	
	少年男子	1	団体16位	道内3校の生徒のチームを結成したが、日ごろの練習で培ったチームワークで1勝を目指して頑張る		岩見沢農業高校男子ソフトボール部はインターハイ2回戦で御調高校(広島県)に惨敗した。
	少年女子	2	団体8位	高校生らしく、若々しくハツラツプレー、そしてどこのチームにも負けない元気の良さで、1戦必勝を目指す。	会木桃夏選手(札幌東商業高校)	札幌選抜として北海道予選会に出場し、初優勝・初出場。
バドミントン	成年男子	5	団体3位、得点18点	今大会、成年男子は16チームの出場で昨年4位と奮起したため、優位にトーナメントを戦うことができる。しかし、各地方予選を勝ち抜いてきた選抜の強豪チームのため、初戦から自分たちの戦いが出来るかがポイントとなってくる	渡部大 選手(JR北海道)	渡部大：2018年全国日本社会人 シングルスベスト8、ダブルスベスト16今大会、単複を兼ねて出場予定のため、チームの勝敗に大きく関係する選手である。3年連続出場(昨年3位) 東野 圭悟：2018年全国日本社会人 ダブルスベスト16 4年連続出場(昨年3位) 竹内 宏気：2018年全国日本社会人 シングルスベスト8
	成年女子	3	団体5位、得点7.5点	全県出場で試合数は多くなるが出来るだけ2-0で勝ち体力を残して強い相手に粘り強く戦いと思っている。三人とも社会人の大会に出て経験を積んでいるので選手三人の役割をしっかりと決めて目標を高め設定して強化する	北翔大学の学生3名	大学での成績はありませんが大学の遠征で実業団の選手と合宿や試合をする事によって自信をつけている選手です。(3人とも)内山は少年から数えると3年連続で出場している
	少年男子	4	団体5位、得点7.5点	国体前に道外遠征も予定しているので、そこでのチームワークを向上させ、上位入賞を狙う。	渡邊昂進(札幌龍谷学園高校)	インターハイ団体戦5位、個人ダブルスベスト32位 個人シングルスベスト32 3年連続5位以内入賞となっています。今年も入賞目指したい。
	少年女子	2	団体5位、得点7.5点	実力的には全国上位に入る選手がおらず、厳しい戦いが強いられるが、ねばり強く戦い、5位入賞を狙う。	鈴木理子(とわの森三愛高等学校)	鈴木理子：インターハイシングルス2回戦進出

弓道	成年男子	4	団体7位、得点6点	近的競技は経験豊富な小田島、演出両選手が、安定。森川選手が的中を伸ばせられれば上位入賞も狙える。遠的競技は主力の森川選手が得点を伸ばせられるかが鍵。	小田島大将選手	
	成年女子	2	団体8位、得点3点	昨年とは2名選手が入れ替わって国体経験豊富なベテランが一人加わり、落ち着いた試合運びができることを期待している。		
	少年男子	3	団体5位、得点12点	近的競技は、1の立の選手が普段通りの射をすれば後ろの二人も落ち着いて頑張れる。大会の雰囲気にもまれないように気を引き締めて臨みたい。		
	少年女子	4	団体4位、得点15点	暑さに負けず集中力を切らすことなく戦い、のびのびとした射で高的中を狙いたい。		
ライフル射撃	全種別	4	個人10位	チームとして合計で40点を超え、何とか団体(天皇杯)8位に入賞できるように仕上げたい。得意なAP競技でブロック通過できなかったのは痛い。ジュニアも短期間で成長してきているので、そこを国体までに成長させ高校生の爆発力を引き出したい。ふるさとの2選手が安定感があり、しっかりと結果を出してもらえると信じている。	柳 あさこ選手 佐竹 優悟選手	柳あさこ選手：2019年度全日本選抜ライフル射撃競技大会 6位入賞 東京オリンピックを目指すために北海道から埼玉に移住し歯科医として働きながら射撃の練習に費やしている。 佐竹優悟選手：平成30年度全日本ビームライフル射撃競技選手権大会 優勝(日本記録保持者)
剣道	成年男子	5		先鋒から中堅まででの勝ち星が勝敗の鍵となる	大将の佐賀 豊選手、副将の栄花直輝選手(全日本選手権者)	
	成年女子	4		前々年度、五位に入賞、今年も三名が力を出し切り初戦突破を目指す。	2名が連続出場選手である	
	少年男子	4		全員3年生で大将・濱田選手を中心にチームが一丸となって戦いたい。	全員が有望選手である。	濱田選手：インターハイ個人・団体ベスト16
	少年女子	5		関川選手を軸に、全員が一丸となって戦うものと思う。	関川選手	4名が、新人戦全国第三位、インターハイベスト16のメンバー
ラグビーフットボール	成年男子	3	団体3位、得点30点	一昨年の入賞をまずはめざし更なる高みを目指す。	稲山 拓己 諸橋 竜太	
	女子	2	団体3位、得点30点	入賞を目指す	山あずさ(株式会社ファーマホールディング)、中澤佑衣(立正大学)	山あずさ：元日本代表選手
スポーツクライミング	少年男子	3	10点	北海道らしい粘り強いディフェンスでロースコアのゲームを展開し、上位進出を狙う。	・ヴェア タモエフォラウ(札幌山の手高校) 原田 李弥(札幌山の手高校)	
	成年男子	5	団体2位 得点21点	スポーツクライミングは、リード、ボルダリングの団体2競技で戦う。共に1位を狙っているが、開催県に強豪がいるので2位とした。	杉本 怜 武者 智希	杉本怜：WCボルダリングで優勝2回 武者智希：WCに4戦出場
	成年女子	3	団体8位、得点3点	本国体までにトレーニングを重ね、入賞出来るよう挑む。		北谷 未紗：6年連続国体出場、兄2名も国体出場(2010、2012) 東 さくら：2年連続国体出場
	少年男子	3	団体5位、得点12点	昨年はボルダリング種目において3位入賞を果たした。今大会では、ボルダリング、リード種目共に入賞を目指す。	坂本大河(札幌平岸高等学校)、 竹内悠真(立命館慶祥高校)	第73回国民体育大会 少年男子ボルダリング種目 3位 坂本・竹内ペアで3年連続出場。
カヌー	少年女子	3	団体8位、得点3点	リード競技よりはボルダリング競技の方が二人とも得意なので、なんとか決勝目指して頑張っていきたい。2人共中学生で国体初参加となるが、実力的には十分可能だと思われる	吉田選手、上原選手	吉田選手：ボルダリングユース日本選手権鳥取大会2019 ユースB女子 24位 上原選手：日本ユース選手権リード競技大会2019 ユースB女子45位
	全種別	3			照井咲頼(北海道南富良野高等学校・転校により鷹栖高校) 山岡洋貴(三笠カヌークラブ) 佐々木裕史(北海道大学カヌークラブ) 深田真衣(北海道大学カヌークラブ)	照井咲頼：令和元年度インターハイ5位入賞
アーチェリー	全種別	4	8位	今回の成年男女の各チームは過去少年時代を含め、国体経験者で構成され、チームとしてのまとまりがよく、入賞を見込んでいる	棚田 歩・中村 美優・松嶋 絹花・大泉 龍晴	中村(成年女子)：インターハイ女子団体優勝・松嶋(成年女子)昨年個人入賞
空手道	全種別	3	個人8位、得点2.5点	初出場選手もあり、国体経験の選手も全国大会での実績がほとんどないが、入賞を目指し準備していきたい。	坂本杏樹(少年女子形) 坂本佳紀(少年男子組手)	少年男子組手・坂本佳紀：全国高校空手道選抜大会 第5位入賞
クレー射撃	成年男子	3	団体8位、得点3点 個人1~3位、 得点24・21・18点	本年度に行われたルール改正により、全国との差が出づらい状況となり、北海道も十分に戦える状況となっていると思う	スキート種目 田畑 篤選手	スキート競技 田畑 篤選手が15回出場
なぎなた	成年女子	3		演技：稽古で積み重ねてきた力をお互い十分に出す。 試合：相手から目を離さず、体勢を崩さず足を使い1本が取れるような攻防が見られること		
	少年女子	4		演技：集中力を切らさず、落ち着いて大きな技がでること。 試合：時間を十分に使い、相手をよく見て、有効打突になるような1本を取る。		
ボウリング	成年男子	4		競技種目は4人チーム戦、2人チーム戦及び個人戦となっている。昨年度、個人戦は3位と8位に入賞したものの、4人チーム戦は12位(28チーム)、2人チーム戦は24位25位(56チーム)という結果であった。本大会では早期のコンディション把握に努め、チームワークを発揮し、まずはチーム戦で入賞を目指したい		
	成年女子	3	団体7位、得点6点	例年2人4人のチーム戦は決勝戦に行けることに望みがあるが、選手のコンディションとレーンの状態がかみ合わず、思ったような成績が残せていない。今年は何とか個人戦、チーム戦とも決勝に進出し、できれば上位入賞をしてほしいと願っている。	保木絵理選手 清野えみり選手	今年初めて出場する水野由希子選手以外は過去の国体にて入賞あるいは優勝の経験あり。 保木絵理選手は成年男子保木慎吾選手と夫婦で出場 工藤ひかる選手は少年女子工藤こまち選手と姉妹で出場
	少年男子	3	団体8位、得点3点	高いレベルの試合になると思われる。タイプは違うが、爆発力を持った個性派である。極力ミス無くして入賞に絡んでほしい。		昨年2人とも全日本中学選手権大会に参加したが、決勝戦には進出したが、上位に絡めなかった。 野呂選手は昨年に続いて連続出場。 紺谷選手は高校生を抑えて初出場で両手投げ
	少年女子	3	団体7位、得点6点 個人8位、得点1点	平川美聖輝選手は昨年の国体に続いて2度目の出場。 工藤こまち選手は初出場です。 スベアが上手な二人なのでチームワークで上位を狙える。	平川美聖輝選手は2度目の出場なので、落ち着いて投球できれば上位を狙える。	工藤こまち選手は姉工藤ひかる選手(成年女子)と姉妹出場
ゴルフ	成年男子	4	団体8位、得点3点	2018年福井国体時と同じメンバーにての挑戦である。2018年国体16位から(平均ストローク73.3)入賞ライン(72ストローク)へのチャレンジに期待したい。		長谷川大晃選手 2019日本アマチュア選手権15位 4年連続出場 片岡尚之選手：6年連続出場 宮本太郎選手：2年連続出場
	成年女子	4	団体5位、得点12点	社会人2名に高校生1名とバランスのとれたチーム。実力的にも上位にくい込める可能性もあり期待大である。		政田夢乃選手：日本女子アマ13位、4年連続出場
	少年男子	2	団体25位	高校1年生、中学3年生の北海道史上最年少チーム。来年に降に飛躍する為の戦いになる。	小村隼士	小村隼士：日本ジュニアゴルフ選手権競技 男子15~17歳の部 91位タイ 山本詠太：日本ジュニアゴルフ選手権競技 男子12~14歳の部 島田温太：日本ジュニアゴルフ選手権競技 男子12~14歳の部 島田紗と姉弟
トライアスロン	成年男子	4	個人8位、得点1点	北海道代表としての誇りと意欲を高く持ち、入賞を目指してポイントを獲得できるようベストを尽くしてレースに挑む。	中島 大海(北海道大学トライアスロン部)	
	女子	4	個人8位、得点1点	野村は、ふるさと選手として出場。北海道代表としての誇りを持ち、ベストを尽くしレースに挑む。	野村 彩夏(日本体育大学)	